

【令和8年度総会の報告】

梅雨も明けて、例年通りの真夏日の時期となりましたが、会員の皆様、ご家族の皆様お元気でお過ごしのことと思います。

既に報告申し上げましたように、令和8年度総会は5月23日（土）、西駅交流センターの会議室で下の写真のように、10時半定刻に始めることができました。総会会場には、華道の生花教授でもあります谷口信子理事（総務）によって



（山田理事、櫻井議長、提案する後野代表）

立派な花が生けられ、華やかな会場雰囲気の中で始まりました。

出席者と委任状を合わせまして35名の参加のもと、1号議案（7年度事業報告）、2号議案（収支決算書・会計監査報告）、3号議案

（8年度事業計画案）、4号（谷口理事による生花）議案（8年度予算案）が、全て承認され、総会をスムーズに終えることができました。



多忙な中、京都市より会員の中川健さんも例年通り出席頂きました。中川さんは、自分自身の会社を運営しながら、私達ネットの会員だけでなく、日中友好団体や日韓友好団体を含め数十の団体の中心で活動を続けておられます。そして、私達京都北部国際支援ネットのように、収益事業を目的としない団体で、活動を継続するのに経済的に豊かでない団体に対して、寄付をされておられます。決算報告にも記載致しておりますように、私達の団体に対しまして、2か月ごとに1万円ずつの寄付を頂き、学習支援を行っている生徒たちの学習教材や問題集、



（一番右が京都市から参加の中川健氏）

事務品の費用などに使わせていただき、経済的に大きな支援を頂いております。

西舞鶴の聖母訪問会（教会）の学習教室で、毎週土曜日の午前9時半から12時まで学習教室に参加している生徒4名も総会に参加してくれました。

舞鶴からは廣田はな（中3）、洋介（高3）の兄妹（中3の高行君は試合で欠席）、綾部からは福田チェリー（中3）とアシリ（高1）たちが今年も参加。



（正面に座っているのが生徒達）

日本に来て2年数か月が過ぎた中で、日常会話ではコミュニケーションが取れるようになってきていますが、学校での教科学習はまだまだ本当に大変だと言っています。

総会後の交流会で、今までのネットの会員による支援や学習支援に感謝しながら、高校生活での様子や決意について、姉のアシリさんが意見発表をしてくれました。

高校入学後も、綾部の自宅から舞鶴の聖母訪問会学習室に、二人は養父の福田さんに毎週送迎してもらって参加し、私達の支援の下に学習に励んでいます。送迎されている福田さんは、9時半には毎回きちんと送ってこられ、舞鶴で用事のない時には、訪問会の駐車場で学習が終わる12時まで車内で待っておられ、終わると綾部まで連れて帰られます。そのご努力には本当に頭が下がります。この姉妹は、滝花理事によっても学習支援が続けられています。毎週、曜日を決めて下校後にコンピューターのネットを使って、国語の学習指導・支援を受けています。

日本語の理解できない外国籍生徒が、高学年で来日して日本語による学習を受けるのは、私達の想像する以上に本当に大変です。しかし、この生徒たちは、私達団体の皆さんの様々な支援や舞鶴市、綾部市の委託事業による支援を受けながら、力いっぱい頑張って学習し、将来の夢に向かっていきます。

日星3年生の廣田洋介君は、廣田3兄妹の長男で中学校3年生の時来日しました。来日当時は、日本語は全く理解できず、本当に日本語での学習は大変だったと思います。しかし4年間、学校の先生たちの支援、そして欠かさず毎週土曜日の聖母訪問会での学習会に参加して頑張り、卒業後は自分の希望する会社での就職を目標に更に頑張っています。この秋からはどこの高校でも会社見学や希望する会社での試験・面接等が始まっていくと思います。洋介君の吉報を楽しみに待っています。そして、半年後には、今訪問会で学習している中学校3年生の生徒達3名の高校への進路も決まっていきます。それに向かって頑張っています。

弟の高行君は運動能力が抜群の生徒で、バスケットクラブで大活躍しています。この夏の京都府大会では、高校インターハイで優勝した京都の精華高校の姉妹校の精華中学校に、準決勝で敗れましたが、将来もバスケットを続けながら高校進学を考えているそうです。

はなさんは、中学校3年生まで、剣道部でがんばりました。高校での学習と将来の夢に向かって、今、高行君と共に学習に集中し、毎週、洋介君と3人で土曜日の聖母訪問会での学習会に参加し、高校受験に向けて私達の支援の下に頑張っています。

アシリさんは、この春に私立、公立の2つの高校受験に合格後、綾部高校に進学して頑張っています。



（会員への感謝と共に高校生活を話すアシリさん）

【8年度以降の新役員（理事）の役職】

第5号議案の新役員（理事）の選出で、下記の6名の皆様が理事に選出されました。その後、理事会（総務会）にて、役職を下記の通りに決めさせていただきました。理事の皆様には、それぞれ地域や自治会等での役職も兼ねられてお忙しいと思いますが、ご協力よろしく願いいたします。

代 表： 後野国雄、 副代表： 滝花利朗

事務局長： 櫻井伸広、

理 事： 谷口信子、山田幸、井関強（山田、井関氏の2名は会計監査も担当）

【学習教室（聖母訪問会）の清掃と周辺の草刈り】

総会後、最初の取り組みとして生徒たちの学習支援教室の聖母訪問会の教室清掃と周辺の雑草の草刈りを6月27日（土）9時より実施しました。忙しい時期でしたが、下記の会員の皆様や学習参加生徒の手によって1時間少して作業は終了しました。

台風が通過する前後と重なり、実施するかどうか当日まで大変心配しましたが、日本の南を通過し、朝から雨も上がり実施することができました。ちょうど10時に終わった時点で小雨が降り始め、本当にうまくいきました。



（井木商会の社員さんにもご協力いただく）

この日は教会周辺の道路に面している水路近くの雑草の草刈りを行いました。また、井木さんの会社からは従業員の方にも応援を頂き、大型のトレーラーを持参いただき、刈り取った雑草を持って帰って廃棄していただきました。

井木商会さんには本当にいつもお世話になっております。有難うございました。

また、小国さんや前野さんたちにはお菓子を持参いただき、休憩時や終了時にみんな美味しく頂きました。本当にいつも気を使っていたいただき、有難うございます。参加した生徒たちも大喜びです。今回、参加者頂いた方は次の皆さんたちです。（敬称略）

小国孝子、前野千津子、井木、櫻井伸広、高田、井関強、山田幸、後野国雄・まゆみ・文也・あおい、廣田はな・洋介、福田チェリー・アシリ、福田高行（チェリー・アシリの養父さんで前日参加）

この日、教会についてみると、学習教室の周辺はすでに数日前に伸びていた草が刈られており、「えっ、誰かが既に刈ってくれたの？」とびっくり。聞くと、井木さんが「アシリの養父母の福田さんたちが、今日は参加できないからと、既に数日前に来て刈ってくれたのだろう」とのこと。



（大型トレーラーに刈った草を載せる）

○教会のシスターさん達には大変喜んでいただき、感謝とお礼のお言葉を頂きました。

この後、清掃も終わり、きれいになった教室で、生徒たちは2時間ほど、数学や国語、理科の学習に取り組みました。

9時から学習教室内の拭き掃除、トイレ掃除、教室の外回りの掃除を女性中心に行っていました。

その教室の外側に広がる教会内の雑草は、既に前日までに、アシリとチェリーの養父母の福田さんたちが作業用機械で刈って頂いていたので、この日に集まった男性会員の皆さんには、教会の外側の水路に面した斜面の雑草を草刈り機で刈り取り、水路に落ちた刈り取った雑草を拾い上げ、更に、井木商会から持参いただいた大型の廃棄物処理トレーラーに積み込む作業等に従事していただきました。



(作業が終わって全員集合)

この写真は全てが終わり、小雨が降り出したときの集合写真です。小国孝子さんや前野千津子さんが持参いただいたお菓子や飲み物を楽しく頂きながら、歓談しています。

7月17日(金)に1学期が終わり、通知表を受け取りました。満足できた評定や日本語の理解がまだできないため、学習内容が分からず、成績も思うように進んでいない教科もあり、悲喜こもごもです。特に高校生になると、



評定が「1」になると、多くが放課後や夏休みに補習授業によって学習支援が特別に行われます。



(毎回参加いただく小国さんと前野さん)

これがないと、学習はますます理解できなくなり、次の学習についていけなくなり、学校嫌いになったり、退学や停学につながり、多くの外国籍生徒がそのような状況に直面しています。しかし、補習を受けなければならないということは、反面、時間的にも労力的にも大きな負担がかかり、その努力が又必要となってきます。

(中3のはなさんとチェリー) それだけに、これについていけるかも大きな課題ですが、義務教育を終えて選んだ道です。補習を担当する



(子供と楽しく参加した会員)

高校の先生方の努力や負担も、大きなものがあります。その支援や指導の下に、補修を受けながら、高校の学習が理解できる学力を付ける努力を期待します。

特に今、私学入学傾向が強まり、公立高校への志願者が激減する中で受験者数が定数を割っている中で、全員入学に近い状況が公立高校で進んできています。それだけに公立高校での生徒に対する学習指導や支援の体制は非常に難しくなっています。学力差が大きくなっている一つの教室でどのように教えていくのか？今までと同じ教科学習指導のやり方では、学習内容がしっかり理解できずに入学してきた生徒はとても学習についていくことは難しいです。反対に学力の十分についていない生徒の指導に合わせて、ゆっくりと丁寧に中学校の復習から始めていたのでは、高校生として学力の十分についている生徒にとってはとても面白くなく、興味を失わせる結果となったり、教科書の学習内容を終えるための時間数が全く足りなくなります。その結果、ますます、公立高校は避けられる結果となり志願者は激減していくことが危惧されています。

高校への政府の学費の全額補助は、高校生や家庭に大きな経済的支援を与える代わりに、環境や施設が私学に比べて恵まれていない公立高校への志願者の減少を生み出すと以前からいられていましたが、実際にそのような状況が急激に起きてきています。本当に難しい課題です。

【外国籍技術研修生への日本語学習支援】綾部市・舞鶴市

今年の春、3年間の自動車の修理・メンテナンスの研修を終えた一人のカンボジア籍青年が帰国しました。日本を離れる前日、職場に別れを言いに行くと、彼は涙を浮かべながらお礼を言ってくれました。本当に誠実で優しい青年でした。帰国後、彼は叔父の経営する自動車工場で、日本で学習・研修したスキルをもとに働きながら、彼自身で自動車会社を立ち上げる夢を持っているのだと話してくれました。4月に帰国して、今頃は夢に向かって頑張っていることと思います。

そして新たに、一人のフィリピン籍研修生が彼に代わってやって来ました。更に、田中聖莉奈・聖進哉姉弟の兄の聖二さんが日本語学習に参加したいと希望し、4年目に入るカンボジア籍研修生とフィリピン籍従業員合わせて4名と一緒に学習しています。みんな明るく礼儀正しく、真面目な好青年です。



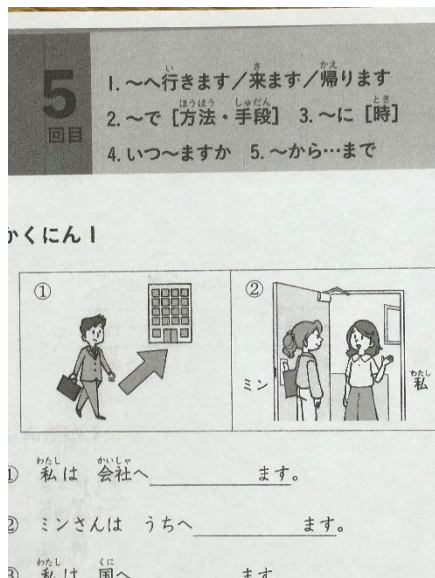
（綾部淵垣店での2グループでの日本語学習）



（左側が新しい2人と指導者、右が2年目の6人と2名の指導員）

綾部では、来日して京都の自動車修理工場で8年ほど技術研修生として働いていたカンボジア籍青年が、淵垣の大嶋カーサービス店にやって来ました。来日して滞在期間が長いので日本語は話せますが、京都では全く日本語は学習できておらず、自分で学習していたそうで、ひらがな、カタカナは書けますが、漢字はほとんど読み書きができません。

もう一人、新たにフィリピンから研修生が入社しました。来日前に3カ月ほど日本語の学習をしてきていますが、他の研修生同様、3カ月ほどの研修では殆ど日本語の漢字の読み書きはできず、日本語の日常会話の意味の理解もあいまいです。それは私達が、外国語をわずか3カ月ほど学習したからといって、現地に行ってもどれほどその言語で日常会話に通じるか、読み書きできるか想像すればすぐに分かることです。5月より、新たな研修生を含めて、綾部の淵垣工場では8名の外国籍技術研修生の日本語の学習支援を3名の会員で行っていますが、日本語の学習のレベルが明らかに違うので、グループを二つに分けて、昨年からの6名と新たに入社した2名とに分けて同じ教室で日本語学習指導・支援を毎週木曜日仕事の終わった6時半から7時半までの1時間行っています。



綾部の店は淵垣店と綾部駅前店と2つに分かれているので、綾部駅前の工場で働いている3名の研修生は、6時に仕事が終わると自転車で淵垣店迄やって来て日本語を学習し、終わると綾部店近くのマンション迄自転車で帰っていきます。みんな熱心に学習している青年たちです。



(淵垣店での6時半から7時半までの学習会)

（淵垣店での6時半から7時半までの学習会）
昨年の6月から始めて約1年間学習を続けてきている5名の研修生は、小学校1年生で学習する「ひらがな」、「カタカナ」、「漢字（80字）」はすでに終わり、2年生の漢字に入っています。新たに福知山店から移動してきた1名のフィリピン籍研修生を含め6名で学習を行っています。日常会話では、「が・の・を・に・へ・と・より・から・で・や」などの助詞の使い方や形容詞「イ形容詞」、「ナ形容詞」の使い方などを指導しながら、日本語のイディオムの意味や使い方も学習しています。

* 「イ形容詞」とは：

基本の形が「～い」で終わる形容詞です。

1. 例 ○高い山 ○寒い日 ○面白い本
2. 「イ形容詞」のポイント

名詞を直接修飾するときも、そのまま「～い」でつなぐ 例 高い山、寒い日

3. 活用も「い」が変化する 例 高い → 高くない → 高かった → 高くなかった…

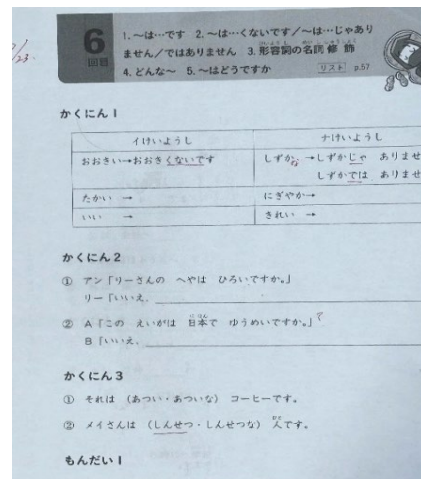
* 「ナ形容詞」とは：

名詞を修飾するときに「～な」を間にはさむ形容詞です。

日本語教育では、学校文法の「形容動詞」にあたります。

1. 例 ○きれいな部屋、○静かな公園、○有名な歌手
2. 「ナ形容詞のポイント」

名詞の前では「語幹＋な＋名詞」（静か＋な＋公園）



(「助詞」の使い方の学習)

3. 文の終わりは「だ・です」で述べる 例 「この公園は静かだ。」

このように「日常会話」における日本語の文法を含む日本語の使い方と同時に、やはり「ひらがな」、「カタカナ」、「漢字」の学習・習得がなければ、日本語での読み書きができず、得られる業務は極めて限られてきます。そのため、両方の指導・支援を行っています。まず彼らの3年間の日本語学習支援（毎週1時間）をきちんと行い、彼らもしっかり意欲的に学習すれば、小学校3年生くらいまでの漢字（300～400字）の読み書きができるようになります。中には5年間の研修を希望している研修生もいます。

2年目の生徒さんは、日本語能力試験（N5やN4）の問題にも取り組みながら、漢字や日本文の学習に頑張っています。



（日本語学習会に参加している田中聖二さん）

【外国籍生徒への学習支援】

総会資料でも報告しましたように、8年度は舞鶴で8名の小学生と1名の中学生の生徒たちへの日本語や教科学習の指導・支援をそれぞれの学校で行っています。綾部市では小学校と中学校それぞれ1校ずつで2名の生徒への指導・支援を行っています。



舞鶴では、今年の新学期から学習指導・支援を私達から受けている児童が6名います。その多くがほとんど日本語は話せず、読めず、書けません。中でも両親が共に同じ国籍の家庭では、母国語での会話となり、学校での教科学習の支援を日本語で行うことはとても困難です。そのため、両親のどちらかが日本人の家庭に比較すると日本語の習得や学校での教科学習の理解が大変困難です。

それだけに、学校でも丁寧な個別指導が特に当初大切になっています。クラスでのみんなとの学習でなく、別教室での私達との対面での個別学習ではリラックスして、その生徒の日本語や教科学習の理解のレベルに応じて教材を準備し、その生徒の母国語も使いながらじっくりと指導し

（中国から来日2年目の中学3年） ていくことができ、生徒も気軽に学習できています。

この個別指導の中では、生活や学習の中で使う日本語についても教えていくことができます。例えば、ポケトークを使って母国語で説明しながら、「分からないときはね、次の日本語を言いなさい。いいですか！“先生、ここが分かりません”。はい、言ってみなさい！」。また、「分かったら、次の言葉を言いましょう。“分かりました”」。



（ベトナム籍小学6年、2年目）

こうして、教室で学習に使う日本語も教え、学習での対応の日本語も使えるように指導していきます。そして、実際に使えているか、担任の先生たちとも確認を取り合っていきます。（来日して半年のベトナム籍6年）

中国から来日して2年目の生徒は、今では殆ど日本語での会話が成立し、教科指導も日本語で進めることができます。



来日して半年のベトナム籍6年生の児童は素晴らしい学力ですが、まだ現地語で進めています。

1学期が終わりましたが、国籍は違っても文化や言葉の違う日本で一生懸命学習に参加しています。しかし、言葉の壁は思う以上に大きく、学校で友達と関わって関係を作っていくにはなかなか難しく時間がかかるのが実情です。そんな中で、彼らや彼女たちは一生懸命、日本で生活し学習しようとしています。

【夏休み子ども交流教室での学習指導】長浜市民交流センター（3週間）

舞鶴市長浜の中舞鶴小学校区域にある長浜市民交流センターで、毎年、夏休み・冬休みの一定期間、中舞鶴小学校を中心に市内全域の小学生の希望者対象に、午前9時より11時まで学習教室が開催されています。その学習教室への指導者派遣の依頼を5年ほど前から舞鶴市より受け、1日2名の会員にお願いし、夏休み・冬休みに学校から出された児童への課題や自主学習の指導に当たってきました。

令和8年度「夏休み子ども教室教室」の実施目的（チラシより）

1. 夏休み期間中、こどもたちに規則正しい生活リズムを身に付けさせ、有意義な夏休みを送らせる。
2. 集団生活の中で、自主的・主体的な学習の習慣づけを図り、ルールを守る態度の育成を図ると共に、地域内外の子どもたちとの交流を促進する。

この「夏休み子ども交流教室」には、校区の中舞鶴小学校児童だけでなく、他の小学校からも希望する子供たちが参加し、学校から出されている夏休みの国語、算数、社会、英語、理科等の学習



（交流教室案内チラシ）

に取り組みます。また、読書感想文を書いたり、夏休みの課題ワークを終えた児童は、私達や交流センターが準備するプリントで復習や予習に取り組んでいます。指導員として、今回、支援ネットより高田・櫻井・後野さんの3名（毎日2名）が参加し、交流センターの藤原相談員（元市内小学校校長）さんと共に3名で、児童たちの質問に答えたり、理解できない教科内容を指導しています。

（7/21～8/7の月～金）

この教室に、8年4月にフィリピンから来日し、大浦小学校に登校し始めた2名のフィリピン籍（5年、6年）兄弟もお父さんの送迎のもとに参加し、熱心に学習に参加しています。来日してまだ4ヶ月程の生活なので、学校から出されている5教科のワーク学習の指導は、基本的に英語で行っています。周りの児童たちも学校で英語を少し習っているのも、大変興味を持って私達の英語を聞いたり、二人に英語で話しかけてきたりして盛り上がっています。

50分学習した後の15～20分の休憩時間には、別室でみんなとドッジボールをしたりして楽しんでいます。二人共1年生のひらがな・カタカナの学習を終え漢字学習を始めたところなので、5年、6年生の国語や社会のワークはとても難しいです。しかし、算数や理科は比較的理解できやすく、英語はほとんど問題なく取り組みます。しかし、例えば、算数で「漢数字、二億六百三十五万八千七百十九を算数字に書き直さない」をどう教えるか？難しいですね。英語の数字は3桁ごとに位が上がる千進数、漢数字は4桁ごとに上がる万進数。皆さんはどう教えますか？

（文責：後野、滝花）